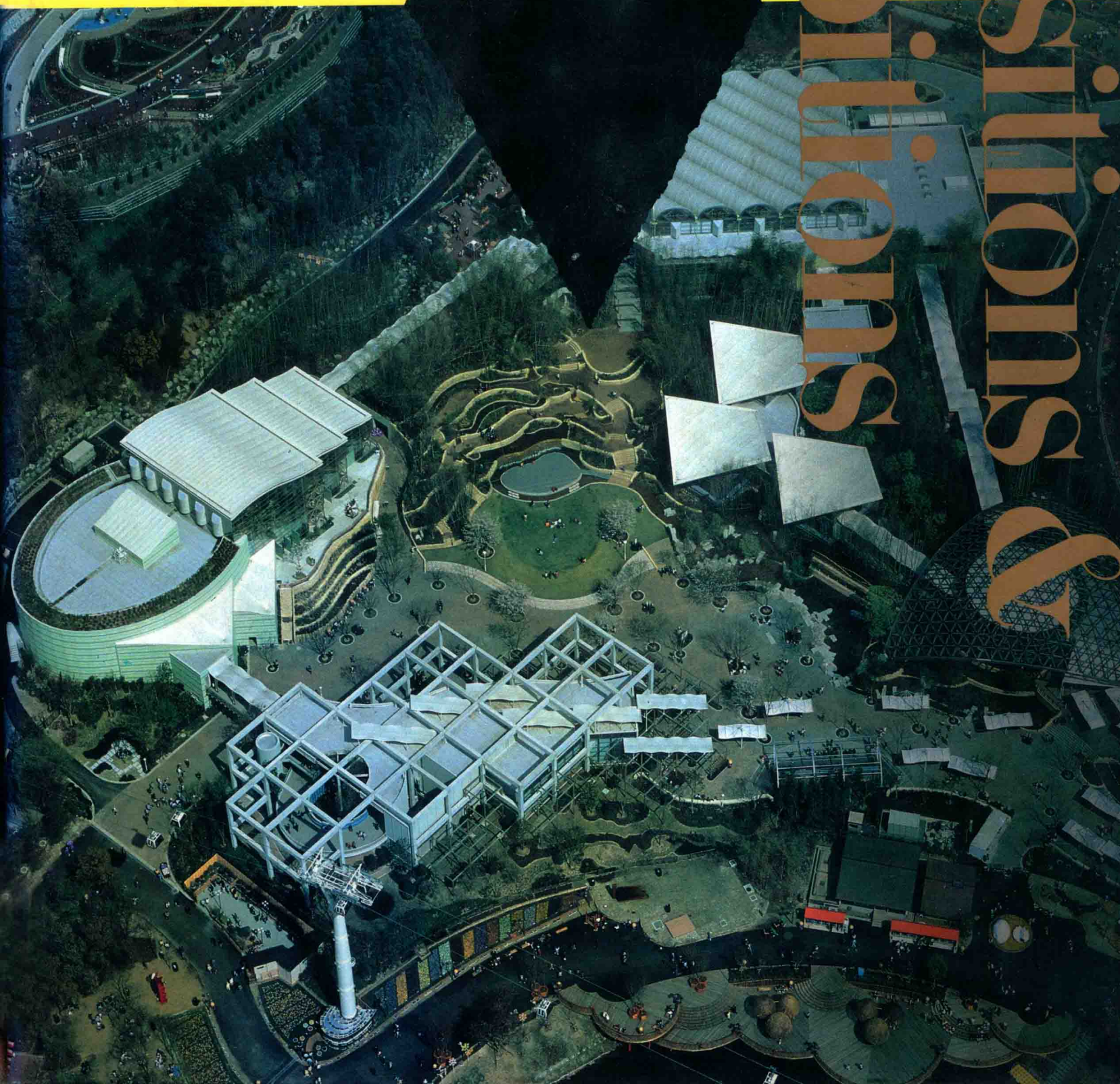


DISPLAY
DESIGNS
IN JAPAN
Vol. 3

Expositions



DISPLAY DESIGNS IN JAPAN 1980-1990



Vol. 3

Expositions & Exhibitions

**DISPLAY DESIGNS
IN JAPAN 1980-1990
Vol.3 エクスポ&エキジビション**

編著者	泉真也・寺澤勉
発行	1992年8月6日
定価	15,000円[本体14,563円]
ブックデザイン	工藤強勝
エディトリアルデザイン	工藤強勝・深澤佳代・羽賀章三郎
翻訳	林千根
編集担当	平林健史・中原君代
発行者	橋本周平
発行所	株式会社 六耀社 〒160東京都新宿区新宿2-19-12 静岡銀行ビル5F TEL.03-3354-4020 FAX.03-3352-3106 郵便振替=東京2-58856
写植・版下	ムサシアート
英文写植	スタジオ・エール
印刷・製本	大日本印刷株式会社 ©1992 Rikuyo-sha Publishing, Inc. Printed in Japan ISBN4-89737-138-4 C3370 P15000E

シリーズ

**DISPLAY DESIGNS
IN JAPAN1980-1990**

Vol.1 ショーウインドウ

Vol.2 ショップ&ストア

Vol.4 ミュージアム&アミューズメント

目次

[展示との至福の出会い]	
私説・万国博覧会縁起 泉眞也	006
[DISPLAY CHRONICLE]	
エキスポ&エキジビション編	012
博覧会	014
[万国博覧会／国際博覧会・詳説] 泉眞也	
日本万国博覧会・次の時代の社会システムを用意したナショナルイベント	016
沖縄国際海洋博覧会・博覧会概念を一新した公園型のはしり	040
国際科学技術博覧会・今日的状況の予感をほらんだ「北」の博覧会	084
国際花と緑の博覧会・2つの流れを環境の中で融合した21世紀型の試み	164
[地方博覧会・概説] 寺下勲	
1980年代前半・地方博の概念を変えたポーピア81	054
1980年代後半・博覧会大型化と全会場型への移行	106
展示会	184
[1980年代のフェア&ショー・概説]	
“見せる”デザインから“魅せる”デザインへ 寺澤勉	186
[1980年代のショールーム・概説]	
「メセナ」デザイン誕生 寺澤勉	212
[1980年代・エキジビションの諸相]	
アートとディスプレイの国境線 松村潤之介	232
[コラム]	
モントリオール万国博、遺産と影響 泉眞也	028
エキスポ、その噴水デザイン 川村耕一	038
博覧会開催数と時代 開化の風俗からまほろしの万国博へ 寺下勲	066
偉大なる脇役たち 会場施設の進化論 古見修一	080
空間と映像の複合化 つくば博の事例から 稲垣博	094
筑波科学博、サイン計画の意義 視覚言語体系の流れの中で 西岡文彦	104
博覧会跡地物語 細井聖	120
博覧会の照明デザイン 技術と演出の変容 石井幹子	138
1980年代海外博覧会の影響 バンクーバー交通博、プリズペーン・レジャー博より 永井朔	162
THE AGE OF DISCOVERY セビリア万国博の日本館 大熊俊隆	182
スペースメディアによるコーポレートコミュニケーション トヨタ博物館を事例に 田中俊行	208
資料編	
[EXPOSITIONS & EXHIBITIONS]	
エキスポ&エキジビション その歴史と展開 魚成祥一郎	244

CONTENTS

[A Happy Moment of Encounter with Appealing Displays]	
Personal Discussion on the History of World Expositions Shinya Izumi	006
Chronicle of Expositions & Exhibitions	012
Expositions	014
[Comments on EXPOs in Japan] Shinya Izumi	
Japan World Exposition, Osaka 1970	016
The International Exposition, Okinawa, Japan 1975	040
The International Exposition, Tsukuba, Japan 1985	084
The International Garden and Greenery Exposition, Osaka, Japan 1990	164
[Comments on Local Expositions in Japan in the 1980s] Tsuyoshi Terashita	
Local Expositions in the early 1980s	054
Local Expositions in the latter 1980s	106
Exhibitions	184
[Comments on Exhibitions in the 1980s]	
Fairs & Shows Tsutomu Terazawa	186
Showrooms Tsutomu Terazawa	212
Aspects of the Exhibitions Junnosuke Matsumura	232
Archive	
The History and Development of Expositions and Exhibitions Shoichiro Uonari	244

DISPLAY DESIGNS IN JAPAN 1980-1990



Vol. 3

Expositions & Exhibitions

DISPLAY DESIGNS IN JAPAN 1980-1990

Vol.3 エクスポ&エキジビション

泉眞也・寺澤勉
— 編著 —



六耀社

凡例

1-本書は1980年代のエキスポ、エキジビションを収録の対象としている。しかし、1980年代に与えた影響を考慮し、日本万国博覧会(1970)と沖縄国際海洋博覧会(1975)を例外的に収録した。

2-日本におけるEXPO(万国博覧会国際事務局=BIEが承認した国際博覧会)は、日本万国博覧会、沖縄国際海洋博覧会、国際科学技術博覧会、国際花と緑の博覧会である。本書では、それ以外の日本の博覧会を地方博覧会の名称で収録した。地方博覧会とは、国内博覧会、あるいは地域博覧会とも別称され、筆者により別称の使用もある。

目次

[展示との至福の出会い]	
私説・万国博覧会縁起 泉眞也	006
[DISPLAY CHRONICLE]	
エキスポ&エキジビション編	012
博覧会	014
[万国博覧会／国際博覧会・詳説] 泉眞也	
日本万国博覧会・次の時代の社会システムを用意したナショナルイベント	016
沖縄国際海洋博覧会・博覧会概念を一新した公園型のはしり	040
国際科学技術博覧会・今日的状況の予感をほらんだ「北」の博覧会	084
国際花と緑の博覧会・2つの流れを環境の中で融合した21世紀型の試み	164
[地方博覧会・概説] 寺下勲	
1980年代前半・地方博の概念を変えたポーピア81	054
1980年代後半・博覧会大型化と全会場型への移行	106
展示会	184
[1980年代のフェア&ショー・概説]	
“見せる”デザインから“魅せる”デザインへ 寺澤勉	186
[1980年代のショールーム・概説]	
「メセナ」デザイン誕生 寺澤勉	212
[1980年代・エキジビションの諸相]	
アートとディスプレイの国境線 松村潤之介	232
[コラム]	
モントリオール万国博、遺産と影響 泉眞也	028
エキスポ、その噴水デザイン 川村耕一	038
博覧会開催数と時代 開化の風俗からまほろしの万国博へ 寺下勲	066
偉大なる脇役たち 会場施設の進化論 古見修一	080
空間と映像の複合化 つくば博の事例から 稲垣博	094
筑波科学博、サイン計画の意義 視覚言語体系の流れの中で 西岡文彦	104
博覧会跡地物語 細井聖	120
博覧会の照明デザイン 技術と演出の変容 石井幹子	138
1980年代海外博覧会の影響 バンクーバー交通博、プリズペーン・レジャー博より 永井朔	162
THE AGE OF DISCOVERY セビリア万国博の日本館 大熊俊隆	182
スペースメディアによるコーポレートコミュニケーション トヨタ博物館を事例に 田中俊行	208
資料編	
[EXPOSITIONS & EXHIBITIONS]	
エキスポ&エキジビション その歴史と展開 魚成祥一郎	244

CONTENTS

[A Happy Moment of Encounter with Appealing Displays]	
Personal Discussion on the History of World Expositions Shinya Izumi	006
Chronicle of Expositions & Exhibitions	012
Expositions	014
[Comments on EXPOs in Japan] Shinya Izumi	
Japan World Exposition, Osaka 1970	016
The International Exposition, Okinawa, Japan 1975	040
The International Exposition, Tsukuba, Japan 1985	084
The International Garden and Greenery Exposition, Osaka, Japan 1990	164
[Comments on Local Expositions in Japan in the 1980s] Tsuyoshi Terashita	
Local Expositions in the early 1980s	054
Local Expositions in the latter 1980s	106
Exhibitions	184
[Comments on Exhibitions in the 1980s]	
Fairs & Shows Tsutomu Terazawa	186
Showrooms Tsutomu Terazawa	212
Aspects of the Exhibitions Junnosuke Matsumura	232
Archive	
The History and Development of Expositions and Exhibitions Shoichiro Uonari	244

私説・ 万国博覧会 縁起

泉 真也

[1. 大規模国際イベント]

万国博と近代オリンピックは二つの代表的な国際イベントだ。この二つが開催できる基本的条件は「世界平和」である。地球社会の将来を考えると、このことのもつ意味は大きい。

しかしこの二つの性格は、非常に異なっている。近代オリンピックはスポーツの祭典であり、ギリシャの伝統を受け継いで、都市が主催者となる。そして競い合い、優勝者を決める。

ギリシャではスポーツは神への捧げ物であった。オリンピックの優勝者に与えられるものが名誉とオリーブの冠だけというのも、そうした理由による。

近代オリンピックは女性の参加を認めるようになり、商業主義が取り入れられる。さらにラジオ・テレビという情報化時代のシステムと組み、その面目を一新する。その傾向を決定づけたのは、ユベロス方式と呼ば

1. 万国博と平和について考えるとき、両大戦間に行なわれたパリ万国博覧会(1937)は、ひとつの象徴的な開催といえる。すでに戦争の影がしのびより、ヒトラーのドイツ館などもそびえる傍らで、スペイン館に飾られたピカソの壁画「ゲルニカ」の存在は、万国博覧会の平和への意志を語っている。写真はパリ万国博覧会の記念絵葉書からのもので、ピカソのアトリエで制作中の「ゲルニカ」。

A Happy Moment
of Encounter with
Appealing Displays

Personal Discussion on the History of World Expositions

Shinya Izumi

[1. Large-Scale International Events]

Both world expositions and modern Olympic Games are two typical types of international events. The basic condition required for holding either of these two events is “peace.” This suggests a very important factor when considering the future of the global society. The two events, however, are quite different in nature. Modern Olympic Games are a festival of sports which is organized by a city, in the tradition of the Ancient Olympics, in which athletes pit their strengths against each other to decide the world’s number one champion. In ancient Greece, sports were offerings to the gods. It was only the glory and a crown made of olive branches that were given to the man of victory. In modern Olympics, participation by women has been admitted. Then, commercialism, supported by the media, pushed its way into the arena. It was the

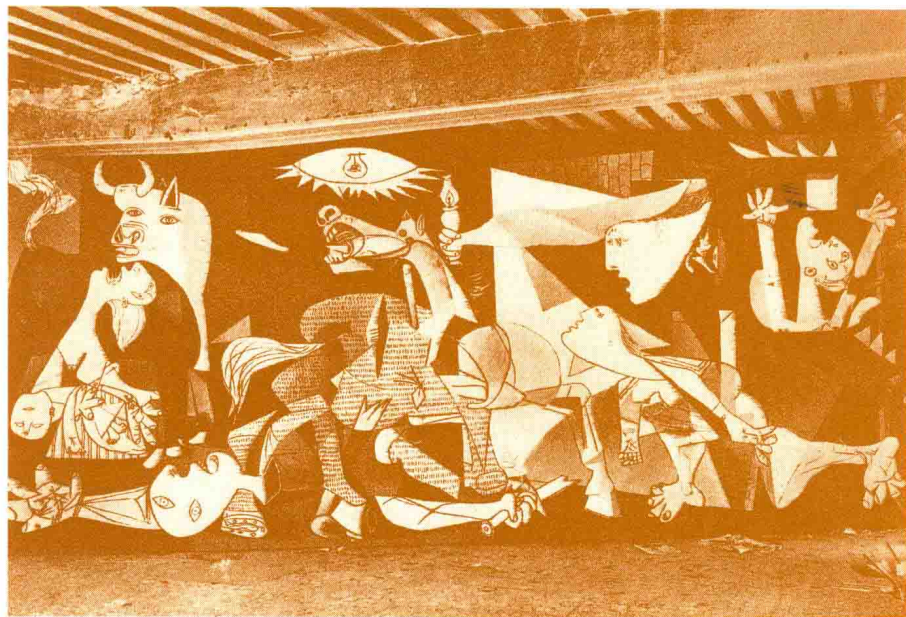
れたロサンゼルス・オリンピックだった。
これに対して、万国博覧会の歴史は1851年のロンドン博に始まるといわれる。
しかし博覧会そのものの前史は、時間を定めて開催された「市」にあった。殆どの市は一定の場所で、定期的に開催された。日本でも十日市、五日市などという地名にその面影を残している。生産の歴史は古い。人類最初の実産である農耕の歴史は12,000年から6,000年以前に始まる。道具や装身具などの生産も同様に古い。それに比べて流通機構は、ひどくおくれてやてきた。ある意味では、現在でも未整備だといってもいい。
古代はもちろん現代でも、一部の地域では市が流通を担っている。生産品、蓄積しておいた製品を、日時と場所を決めて皆んなで持ち寄り、相互に物々交換するか貨幣を介して交換する。その市では「商品」のほかに、商人たちの持ち込む情報人がびとの興味をそそり、

そこに集まる大勢の人びとを目当てに、エンターテイメントが盛んに行なわれた。
流通機構の整備以前の市は、商品交換場であり、広く情報に接し、娯楽を楽しむ仮設の広場であった。
街道と馬車、運河と船に頼っていた流通は、鉄道の発達によって一変し、近代的流通ネットワークが芽生える。その結果、市の三つの機能のうち、商品交換がまず分離し、日常化する。
そして残った情報交換機能が「博覧会」となり、エンターテイメント機能も次第に日常化し、常設化する。
ヨーロッパに今も残る巡回サーカスはその名残であり、アメリカのハリウッド、その落し子ともいえるディズニーの世界は、産業化したかつての市の一部である。

[2. 博覧会前史]

ヨーロッパにおける最初の博覧会は、1620年頃に開か

1. When considering world expositions in relation to peace, the exposition held in Paris in 1937 has a symbolic meaning. With the signs of the approaching war, Picasso's mural "Gernica" displayed in the Spanish pavilion right next to Hitler's German pavilion manifested the strong will for peace that the world exposition cherished. The photo shows "Gernica" in his atelier, one of the memorial postcards issued for the Paris Expo.



1

Los Angeles Olympic Games that set the trend for commercialism through what was called the Ueberroth method.

The history of World Expositions began in 1851 with the London Expo. The antecedents of expositions were regularly held markets. In Japan, there are cities called "Tenth-Day Market," "Fifth-Day Market" and so forth as evidence of this.

Compared to the long history of production, the development of distribution systems lagged far behind. In a sense, it is still under-developed. And even today, in some places of the world, markets are playing important roles in distributing merchandise. People bring their products on certain dates to certain places, and exchange them for other products or by the medium of money. Apart from exchanging products, information that sellers bring also interests buyers. Entertainment

groups gather to entertain the large audiences at markets. Market places, which were in place before the development of distribution systems were well organized, provided a merchandise and information exchange center, and a temporary square for amusement. The distribution system that depended on roads, horse carriages, canals and boats was overwhelmed by the development of railways which promoted the development of modern distribution networks.

As a result, among the three functions of the market, the "merchandise exchange" function was the first to be separated, and the distribution of merchandise became an everyday matter. The "information exchange" function evolved into an "exposition," and the "entertainment" function also gradually became an everyday happening. Circuses traveling through various places in Europe are the remains of the entertainment func-

れたルーブル美術館だったといわれている。この企画によって、それまで王侯・貴族の独占であった美術市場が一般金持市民階層ブルジョワジーにも開放され、画家が職業として成り立つようになる。

約200年後、スチーブンソンによる鉄道がストックトンとダーリントンの間に敷設され、近代的交通網、流通ネットワークの時代が始まった。それから僅か27年後、1851年に世界最初の万国博覧会「ロンドン博」が開かれる。そしてその数年後、最後の大規模な市が幕を閉じた。

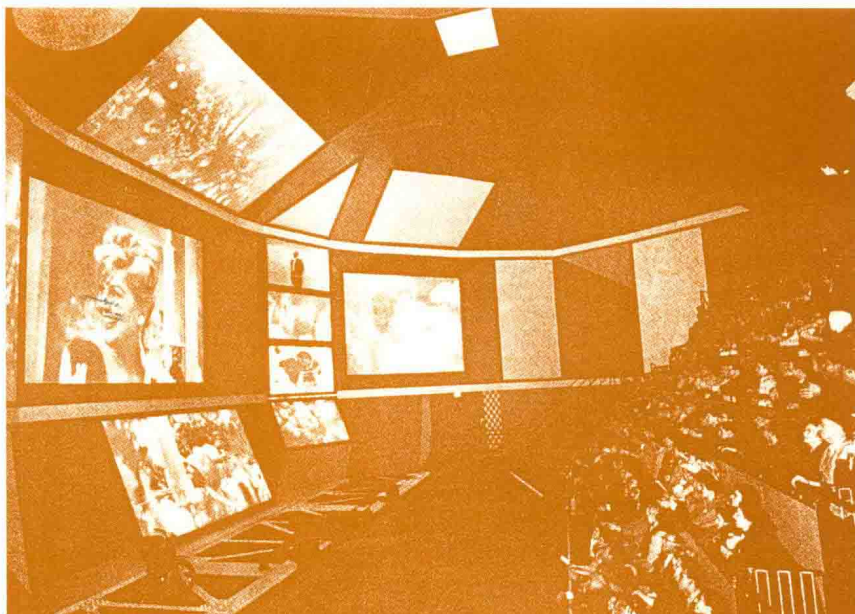
こうした歴史の流れを見ると、オリンピックと万国博の違いが、はっきりする。オリンピックが個人を中心とする競争の場であるのに対して、万国博は国、あるいは社会を中心とする相互理解の場、相互啓発の場であって、競い合うというコンセプトは、全くない。もし、両者に共通するものを求めるとすれば、現在の

世界では、両者とも企業の協力なしには成立できないということだろうか。

オリンピックはユベロス方式によって民間方式が大幅に採り入れられたが、万国博はその成立の最初から、企業の力なしにはできないイベントであった。

事実、史上最大の万国博といわれている1964年～65年の二年間にわたって開かれたニューヨーク万国博は、BIE（万国博覧会協会、在パリ）の承認の下に開かれた通常の万国博ではなく、民間企業の手によって独自に開かれたものだった。バビリオンの数は250を超え、今日ディズニー・ランドで見ることのできる「It's a small world」のような歴史的名作、立体的マルチ・スクリーンの走りとなったIBM館の13面マルチのような前衛的作品を生んだ大博覧会ではあったが、商業主義が強く前面に出たことは否めない。

このニューヨーク博が日本の博覧会関係者に与えた影



2

2. ニューヨーク世界博覧会(1964-1965)で人気を博したIBM館のマルチスクリーンによる劇場の例。映像制作、並びにバビリオン全体のデザインは、チャールズ・イームズ、生の司会者、実物のオートバイなども、ショーのなかに同時に登場。観客は座席ごと移動して、入退場する。待ち時間には、椅子の前で楽団が演奏し、楽しませる。

●写真撮影：牛窪正

3. ブリュッセル万国博覧会(1958)のテーマタワー「アトムウム」。金属結晶の原子構造を表現したもの。9個ある球の直径は59フィート。一番下の球が展示館に使用され、上の球は展望台やレストランに当てられた。写真は現在も残るアトムウムの姿。周辺は、スポーツ施設、文化施設、ミニチュア建築庭園などをそなえた緑豊かな公園を形成している。

●写真撮影：魚成祥一郎

tion of the old market place. Hollywood in the United States and its by-product, Walt Disney's world are also that part of the old market which was capitalized upon.

[2. Pre-History of Expositions]

It is said that the first exposition in Europe was the Louvre Museum which was opened around 1620. With this, the art market which hitherto had been monopolized by kings and aristocrats was liberated for bourgeois citizens, and painters became able to make their living by painting.

About 200 years afterward, in England, railways were laid between Stockton and Darlington to run a steam locomotive invented by Stevenson, marking the commencement of modern transportation as well as distribution network systems. In 1851, the world's first exposition was held in London. Several years later, the

market of the greatest scale in the world was closed. From this historical viewpoint, the difference between Olympic Games and expositions is obvious. While the Olympics are a place for individual competitions, a world exposition is a place for mutual understanding and mutual enlightenment among countries or societies. There is no concept of competing against each other. If there is something in common, at all, both cannot be organized without the cooperation of corporations. It was only after the 1984 Los Angeles Olympics that private participation was encouraged in the Olympics, while the world exposition from its inception could not survive without inviting active participation by the private sector.

The New York World Fair held for two years from 1964 to 65 was not a world exposition held under the auspices of the Bureau International des Expositions

響には、非常に大きなものがある。今日の日本の万国博覧会の長所も欠点も、このニューヨーク博に起因するといっても、決して過言ではない。

1964年は日本人の海外旅行が自由化された年であり、多くの日本人がこの博覧会を見た。私自身も64年、65年の二度訪れている。そして、このいささか特殊な博覧会を、これこそ真の万国博と思い込んだ。万国博で、人が何人集まるか、面白いかな、儲かるかなを日本人ほど問題にする国は、世界でもほかにない。それは多くの日本人にとって、万国博初体験がニューヨーク博であったということにあると、私は思う。それは日本にとっても世界にとっても、不幸なことであった。

[3. 戦後の万国博覧会]

日本人が初めて計画したオリンピックも万国博も、太平洋戦争の勃発によって消え去った。戦後、日本が最

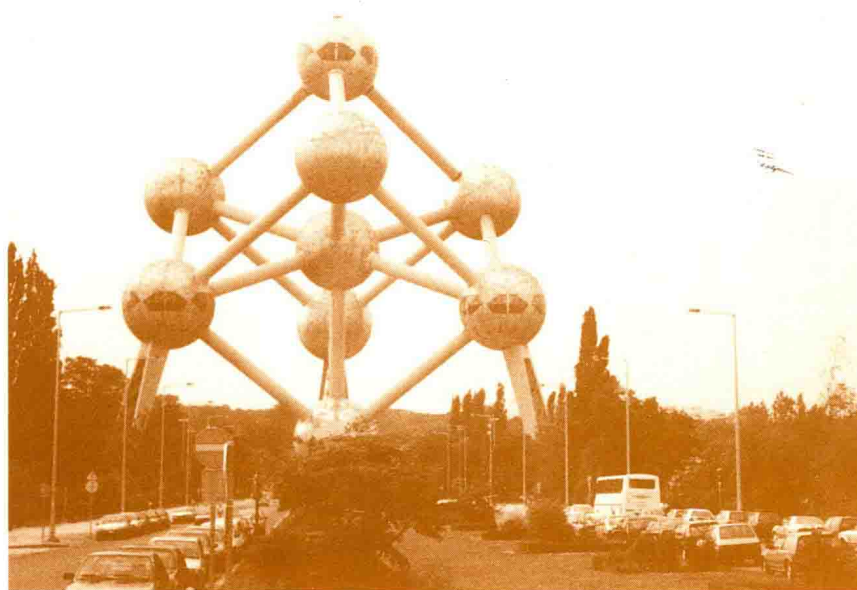
初に参加した万国博覧会は1954年のブリュッセル博である。テーマ館はアトミウムと呼ばれ、原子構造を形取ったものである。運営上の危険を承知で、このパビリオンを作ったことに、時代の原子力に対する熱い眼差しが読みとれる。事実、世界は輝かしい原子力の未来を信じ、今世紀中にエネルギー問題は解決され、人類は一大飛躍期を迎えるだろうという説まで現われていた。

このように万国博は、いつでも時代の風であり、同時に黙示録でもあった。前述のニューヨーク博でさえ、その華やかさと裏腹に「理解を通じての平和」がテーマであり、ベトナム戦争にのめり込んだアメリカの苦悩がうかがえる。

こうした眼差しで万国博覧会の歴史を振り返ってみると、大きなテーマもさることながら、個々の優れたパビリオンや展示のイメージが、より強く、より鮮明に残っ

2. A multi-screen theater in the IBM pavilion which was popular at the New York World Fair (1964-65). Charles Imes designed the pavilion, and directed the film creation. A person as a master of ceremonies, and a real motorcycle appeared during the film show. Audience entered and left the hall while sitting in their seats. During the waiting time, musicians played live music.

3. "Atomium," the theme tower at the World Exposition in Brussels, 1958. It symbolized the atomic structures of metallic crystal. The diameter of each of the nine globes is 59 feet. The globe at the lowest position was used as a pavilion, while the higher ones were used for a restaurant and a panoramic viewing tower. The photo shows the Atomium today in a wooded park, surrounded by sports and cultural facilities, and a garden of miniature architectural structures.



3

(BIE), but was organized by private initiatives. It was a grand-scale exposition with more than 250 pavilions. A lot of state-of-the-art display devices made their first appearances during the exposition, including the 13-face multi-screen in the IBM pavilion. It also produced Disney's "It's a small world." Commercialism, however, prevailed in this exposition.

The New York Fair exerted a great impact on those Japanese people concerned. It is not too much to say that both the positive and negative points about expositions held in Japan today have their origins in the New York Fair. Traveling abroad was liberated in Japan in the very year of 1964. So, many Japanese went to see the Fair. I personally visited the Fair twice, and believed that this unusual exposition was a genuine world exposition. Our keen concerns about how many visitors were mobilized, whether exhibits

interested visitors or not, and whether it was profitable, might have been incited from our initial experience at being at the New York Fair, which is unfortunate for both Japan and the world.

[3. Post-War World Expositions]

Both the Olympic Games and World Exposition that Japan was to hold in pre-war days were cancelled because of World War II. Japan took part in the World Exposition in 1954 held in Brussels. The theme pavilion was called "Atomium" and built in the shape of an atom. The construction of this pavilion, at the risk of management difficulty, manifested the organizer's hot concerns about atomic energy. As a matter of fact, the world believed in the bright future of nuclear energy, and expected that the energy problem would be settled within the century. There were some people who even

ている。

二、三の例をあげてみよう。1974年に開催されたスポーケン環境博に、「アフロ・アメリカン」というパビリオンがあった。小さく、質素なパビリオンだった。しかしその印象は、今も深く心に刺さっている。観客は一度に10人程しか入れない。グループに一人ずつ案内者がつく。入ると内部は真暗である。突然、壁にスポットがあたる。光の中に一枚の古い写真。「私たちの歴史は、商品として始まった」というコピーと奴隷上陸の光景がせまる。私以外は総て白人だ。彼らの背中に、きゅっと緊張が走るのが分かる。誰も、何も語らない。そのスポットが消え、数メートルの先に、次のスポットが当たる。光に導かれるように人びとは暗闇の奥へ、奥へと入っていく。

展示は、屈辱的な黒人の生活にもやがて法と正義の力が及び、次第に市民としての権利を得る歴史が語られ

る。やがて黒人の中に自助の精神が芽生え、働き、学び、世界的な人材が生まれる。学者、政治家、宗教家、思想家、スポーツ選手、芸術家などなど、アメリカの文化を担う人びとが生まれる。

粗末な造りのせいか、どこにいても太鼓のリズムがもれてくる。それがまるで歴史の主調低音のように響く。突然、暗闇のトンネルから明るい吹抜けに出る。黒人たちの大型のポートレートが私たちを囲む。キング牧師、マリアン・アンダーソン、シュガーレイ・ロビンソンなど、世界的な人材ばかりである。そのとき私たちは、展示が総て白黒二色で行なわれていたことに気づく。

二階へ登る。一転して、目のくらむような色彩の氾濫だ。そこは黒人芸術の世界である。何という鮮烈な対比。サイン帳にGreat!の文字が並ぶ。

同じスポーケン博のアメリカ政府館も素晴らしかった。



4

4. スポーケン環境博覧会(1974)。アフロ・アメリカン・パビリオン1階。アメリカに渡った黒人の歴史を巡り、暗闇のトンネルを抜けると、突然、明るい吹抜けに出る。そこには黒人たちの大型のポートレートが観客を囲む。キング牧師や野球選手ジャッキー・ロビンソンなど、世界的な人材ばかり。展示はすべて白黒2色で行なわれていた。

5. スポーケン環境博覧会アメリカ政府館のブローグ部分。壁面に「この大地は人間のものじゃない。人間が大地のしもべなのだ」のコピーが書かれている。これは100年前に語られた、自然に対する深い崇敬の言葉であり、公害に対する反省から開催されたスポーケン環境博のテーマとなった。

said that humans would make great leaps by using nuclear energy.

World expositions have always spearheaded the trends of the times, and at the same time, have been the revelation. Even the aforementioned New York Fair had a theme "Peace through Understanding," reflecting the agony of the United States as it was increasingly involving itself in the Vietnam War.

Looking back at the past world expositions from such a viewpoint, there are some pavilions and exhibits that still remain in my memory. One notable example is the "Afro-American" pavilion in the Spokane Environment Exposition. This was a small and simple pavilion that could accommodate only ten people at a time. The inside was dark, and suddenly a spot light was projected onto the wall to show an old photo of African slaves arriving on the American shore, and the mes-

sage that read "Our history began as merchandise."

The visitors then were all Caucasians except myself. I could sense the strain running in their backs. Nobody said a word. Another spot light was located several meters from there. The visitors went into the room as if following the light. The displays told the history of the life of the blacks, from the humiliation of being slaves, until they finally obtained civil rights. They began to gain a spirit of self-help. Some worked hard and became prominent scholars, politicians, religious leaders, philosophers, sports champions, and artists who shouldered an important part in the American cultural life. Drumming sounds could be heard all over the exhibit hall seeming to sound out what is the basic low tone of their life. Then, suddenly, we, the visitors, found ourselves entering into a bright atrium, and being surrounded by large portraits of the Rev. King,

「この大地は人間のものじゃない。人間が大地のしもべなのだ」というコピーで始まる見事な映像展示が中心だ。自然と共に生きるインディアンの生活が、美しい大型映像で展開される。「素晴らしいコピーですね。アメリカ、ナンバーワンのコピー・ライター作品でしょうね」と問いかけた私に対する返事は、思いがけないものだった。「これはインディアンの大酋長の言葉です」

100年前、この地を訪れた二人の白人が、スポーケン市の土地を買った。僅か500ドル。あまりの安さに驚いた二人に、酋長がいったのが、この言葉だという。

「この言葉の本当の意味を、私たち愚かな白人は理解できませんでした。しかし今なら分かります。公害に悩んでみて、大酋長の言葉の真意を知りました。それでテーマとしてこの言葉を選びました」

この野暮とも思えるアメリカの率直さに、やはりアメ

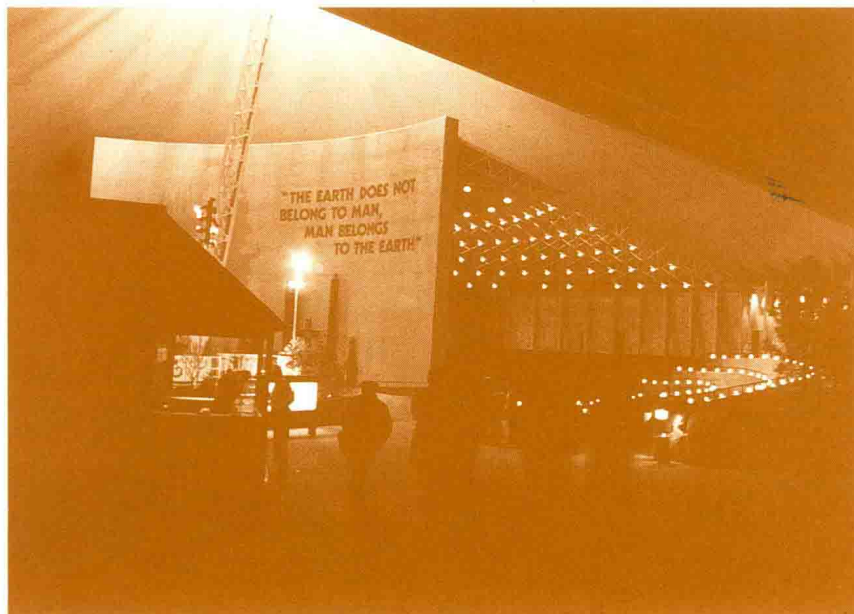
リカは凄い国だと思い、それが自然と尊敬の念につながっていた。

こうした経験は、私たちディスプレイの関係者に、限らない希望を与えてくれる。そうした展示との出会いのときは、まさに至福のときであり、万国博覧会の世界でも、やはり「神は細部に宿り給う」のだと、私は思う。

(環境プロデューサー)

4. Spokane Environment Exposition (1974). 1st floor of the Afro-American pavilion. After going through a dark tunnel showing the history of the life of the blacks in the United States, the visitors were led into a bright atrium. There, large portraits of Martin Luther King, Jackie Robinson, and other world famous personalities were displayed. The exhibits were all in black and white.

5. The prologue of the US Government pavilion which reads "The Earth does not belong to Man. Man belongs to the Earth." These words were spoken more than a century ago by the chief of an American native tribe, expressing their reverence toward nature. The phrase was used as the theme of the Spokane Environment Exposition.



5

Marian Anderson, SugarRay Robinson, all world famous personalities. We found that the displays so far were all in black and white. Going up to the second floor, we felt dizzy in the world of art created by Blacks with the flood of bright colors. What a contrast! The visitors' book was filled with comments such as, "Great!"

The America pavilion in the same exposition was equally impressive. The main exhibit was a video show which started with the message, "The Earth does not belong to Man, Man belongs to the Earth." And the film went on to show the lives of native Americans, closely associated with nature, on the large screen. I admired the message, and asked if that was the creation of a top-class copy writer. The answer was that it was a message by the chief of a tribe. About a hundred years before, two White Americans

bought a land plot in Spokane for as little as 500 dollars. The chief of the tribe spoke those words to the two men who were so surprised with the price. The exhibitor said, "...at the time, we could not understand what the chief really meant. But now we know, after suffering from pollution. So, I took up his words as the motif of the exhibit." I admired this candidness of Americans and, as a matter of natural consequence, my respect toward Americans grew.

Moving moments such as the above give fresh stimuli and energy to people interested in displays. It is a happy moment when I encounter a display that exerts some impact on me. Even in the world of world expositions, I feel that God dwells in the details.

(environmental producer)



ショールーム



ソニービル(1966)



TOTO(1971)



高度成長

第2次オイルショック



エキジビション



もの

省エネ

くらし

化学プラントショー(1966)

第1次オイルショック

国際ポートショー(1962)

国際見本市(1954)

ビジネスショウ(1949)

エレクトロニクスショー(1962)

JAPAN SHOP(1972)

全日本オーディオフェア(1952)

東京モーターショー(1954)

国際ホテルレストランショー(1973)

戦後復興

東京国際包装展(1966)

データショウ(1973)

グッドリビングショー(1970)

エキスポ&エキジビション編



地方(国内)博覧会

神戸ポートアイランド博覧会(1981)

福井文化・産業博覧会(1980)

仁尾太陽博(1981-83)



万国博覧会・国際博覧会

日本万国博覧会(1970)

沖縄国際海洋博覧会(1975)

ニューヨーク世界博(1964-65)



海外EXPO

モントリオール万国博(1967)

ブリュッセル万国博(1958)

ヘミスフェア世界博(1968)

スポーケン環境博(1974)

